

あだたら

発行所 新山市の会
〒965-0243 福島市茶園1-1-63-3
0243(23) 4425
編集 佐藤 延子

一月十九日(木)

二月山行・福島市十万劫山

報告 編集部



12時30分、昼食休憩終えて山頂出発、手前に三角点

十万劫山は福島市東部花見山公園の近くにある。山頂近くに無線塔があり、二本松市霞ヶ城公園からも見える事が出来る。午前九時、ベイシア駐車場集合、菅野善雄さんの奥さんと、菅野

富美子さんの娘さんを加えて参加者は六名となった。何度も行っている菅野善雄さんの案内で、コースは花見山麓→花見山山頂→稜線分岐→十万劫山頂→天徳寺峠→茶屋沼→花見山戻り

の周囲コースとなった。まず阿武隈川東岸を走って福島市花見山へ。この時期登山者は少ない、というか居ないので、花見山阿部さん宅下の駐車場に止める事が出来た。午前九時四十分登山開始、まずは花見山の散歩道を登る。雪はあるが靴は潜らない程度。下の方では黄色のロウバイが花盛り。二十分ほどで花見山頂到着、福島市街の眺めが良い。ここから裏に回り十万劫山方面に進む。十本ほどの四季桜が花盛り。ここからは稜線に向かって登る。途中では「ウサギの足跡」、「リスの食痕エビフライ」など見付けることが出来た。背の高い樹林帯で十一時には稜線分岐着。此所まで花見山入口から一時間十五分程度。分岐からは稜線を東に辿り午前十一時五十四分、広い十万劫山山頂に到着した。日射しはあり風もなく暖かな日で、昨日からの雪が十センチほど積もっていた。車の轍もあったので車で山頂まで登ったので車もいるのだ。山頂 樹林のため見通しが良くないが、西側に大きく安達太良連峰が、北側には福島市街と遠く吾妻連峰が見える、ようだ。天井山も近いはず。葉っぱの落ちた今でもこうなのだから、葉が茂った時期の見通しは殆ど望めない。昼食後十二時半山頂発、天徳寺峠を目指す。途中に無線塔が二基ある、低い方は福島市消防本部の中継装置のようだ。無線塔の間は崖で樹林でないため、福島市街が望める。峠には茅葺屋根の建物(元天徳寺?)と天徳寺がある。此所まで二十分。ここからは北側に下る。日影なので雪は一寸深い。車も通る道なのだが有り難いことに出会うことはなかった。十三時三十



六分人家まで下がってきただ、「茶屋の桜」だ。ここからは車道歩き。ここには昭和三十年代そのままの見通しは殆ど望めない。「山の入」バス停があった。市街地の商店などの看板が一杯張ってあるが、電話の局番が一桁だ。ある意味で貴重品。間もなく茶屋沼公園、ただトイレは凍結防止のため使用できない。更に下って十四時二十分、花見山下の大きな駐車場に出た。このトイレは開いていた。このあたりから十万劫山頂近くの無線塔も見え、十四時三十五分、無事阿部さん宅下の駐車場に戻ることが出来た。

11時52分 十万劫山頂到着

平成二十九年もおだやか元日となり城山で初日の出、部落の神社を廻り初詣。元日の行事、今年も滞りなく行なう事が出来た、幸せな年に成ると思う。朝食後奥岳十時三十分出発、くろがね小屋に向かう。山頂や小屋で元朝を迎えた人達が下山して来る。顔見知りの人達と何人か逢う事が出来た。今年も雪も少なく、あの歩きにくい登山道が歩きやすい。小屋に十二時三十分に着く。小屋では早くも新年のお祝いをしているグループなど賑やかだ。昼食後ストープの廻りで皆と山談義、楽しい一時を過ごす事が出来た。午後二時小屋を出る。途中雪の中自転車を押して登ってきた若者や、小屋泊まりのグループが上がって来る。中には初めての人なのか「小屋まであと どの位ありますか」など聞く人もいた。奥岳三時三十分下山。今年も元日登山出来て最高。一月三日は岩角山の初寅祭だが、祭が目的でない。朝九時家を出発、舟形石・菅田橋を通り、旧白沢村へ。岩角山頂奥の院に着いたのが十二時三十分、参拝をし

屋敷。菅田橋あたりでは暑



位だったのが天気が急変、温度も下がり雪もちらついて来た。長居は無用、早々に下山。午後一時の「梵天取り」を写真に収め、帰路につく。石井の西荒井に来た頃から足の痛みを感じ、舟形橋に来た頃は痛みがひどくなる。二本松市街地に入った頃には痛みはピークに達してきた。家に電話を入れようかと思ったが、後三キロ約一時間の我慢と痛みを堪え、家に着いたのが四時四十分。靴を脱いで足を見ると、足の底は赤く小指は両方共血豆が出来腫れ上がった。山では七時間や八時間歩いても最近こんな事はなかったがロード歩きは、山屋(やまや)には向いていないのか?、そんな思いをした岩角山だった。

岩角山初寅祭

個人山行、元日くろがね小屋、岩角山初寅祭「かち」で参加

報告 菅野善雄